歴史・防衛講座

【 講 師 】　青山学院大学大学院教授　福井　義高　先生

略歴：昭和37年（1962年）京都府生まれ。東京大学法学部卒業。カーネギー・メロン大学大学院博士課程修了（Ph.D.）。国鉄・JR東日本勤務などを経て平成20年より青山学院大学大学院国際マネジメント研究科教授。専門は会計制度・情報の経済分析。著書に『会計測定の再評価』、『鉄道は生き残れるか』（中央経済社）、『中国がうまくいくはずがない30の理由』（徳間書店）など。

【 演　題 】　歴史における意図と結果
～ チャンドラ・ボースと汪兆銘の場合 ～

チャンドラボースとガンジー

1941年12月に大東亜戦争が始まり、日本軍がシンガポールを陥落させ、ビルマに迫った。その間、捕虜となったイギリス軍の中のインド兵は、日本軍が協力して編成したインド国民軍に加わり、イギリス軍と戦う側に立った。この情勢により、インド内部ではチャンドラ＝ボースが日本軍とともに攻めてきてインドを解放するのではないかという強い期待がわき起こった。ガンジーでさえ、ボースの放送の影響を受け、日本軍の勝利、イギリス軍の敗北を予測し、「インドを立ち去れ」（クィット＝インディア）運動を開始したとも推測される。

南京国民政府主席時代の汪兆銘

日中戦争のさなか、重慶にたてこもって日本と戦いつづける蒋介石とは別に、南京国民政府を樹立して日本との和平交渉に踏み切った汪兆銘、それゆえに「売国奴（漢奸）」のレッテルを貼られ、中国革命の歴史から抹殺された文人政治家、中国革命の父・　孫文の第一の後継者にして、蒋介石・毛沢東の先を駆けた文人政治家。

【 日　時 】　平成27年8月22日（土）
午後2時30分～午後4時30分

【 場　所 】　靖國神社　靖國会館2F「田安の間」

【申し込み】
メール　takeda7599@yahoo.co.jp
電 話　090－1693-7599
FAX　裏面FAX申し込み用紙

【 参加費 】　2,000円

主催：（一社）日本郷友連盟東京都郷友会